おおむた自慢

児童と飼育ヤギの交流がつないだ物語

いのちの大切さ、伝えていこう未来の“おおむたっ子”へ

校庭の片隅などにある飼育小屋で、小学校の児童がニワトリなど動物のお世話をしている。そのような光景を見ることは、少なくなりました。そのような中、大牟田市立手鎌小学校（竹谷浩明校長）では２匹のヤギが飼育され、学校のシンボル的な存在として子どもたちに愛され続けています。

生き物の命に責任を持つ体験を通して思いやりを育む

同校では、平成 23 年から子どもたちの情操教育の一環としてヤギの飼育を始めました。当初はメスのヤギ「メー」の１匹でしたが、オスのヤギ「めいたろう」がやって来て、翌年には子ヤギの「ゆき」が誕生しました。慣れない動物の飼育には、試行錯誤と困難の繰り返しだったようです。その中心を担ってくれている児童たちは、今では慣れたものです。

毎日ヤギの健康状態をチェックして先生に報告したり、夏の暑さを見かねて忘れ物の傘で日よけを作ってあげたりと、優しさが随所に見られます。

９年間で一番嬉しかったことは、真っ白な赤ちゃんヤギが産まれたこと。

一番悲しかったことは、お父さんヤギ「めいたろう」が病気で死んでしまったこと。

生き物の命に責任を持つ体験を通して、児童の思いやりは育まれ続けています。ヤギの親子とふれあう中で、獣医や動物園の飼育員を志す児童も少なくありません。そのような夢をかなえた子どもたちとの再会を、学校ヤギの「メー」は、心待ちにしているようです。

絵本「やぎのメーちゃん」完成

保護者や地域の皆さんの協力で飼育されてきたヤギのメーちゃんの思い出を残そうと写真の（文）住吉久美子先生、（絵）馬場真帆さんにより絵本が制作されました。

この制作に尽力された前校長の山崎強志先生は、手鎌小学校の子どもたちが大人になっても、メーちゃんのことを語り継いで欲しいと、お話しされました。

この絵本はＡ４サイズで１冊千円にて手鎌小学校で販売されています。

編集後記

光陰矢の如し――。昨年５月に新しい体制となり、早１年。時の速さを実感しました。北海道への視察の折、疾走する列車から過ぎ去る雄大なる北の大地を眺めて、「ほんの少し前までは、のんびりとした時間が、同じ車窓から流れていたのだろう」と思いました。誰人も平等に１日24時間。この与えられた大事な24時間を２年目となる本年度も無駄にせず、愛する郷土のために使って参りたいと思います。（Ｙ）

■編　集　広報広聴委員会広報部会
【委員長】三宅智加子　【副委員長】島野知洋
【委　員】森竜子　山田修司　平山光子　崎山恵子
■発　行　大牟田市議会
〒836-8666　福岡県大牟田市有明町２丁目３番地
TEL　0944-41-2800　FAX　0944-41-2880
E-mail e-gikaijimu01@city.omuta.fukuoka.jp
■印　刷　株式会社江崎印刷所